

あいち防災フェスタにブース出展

～日本地震再保険社と連携し、自然災害に備える保険の普及促進等を実施～

日本損害保険協会中部支部（委員長：川杉 朋弘・東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員）は、11月10日（日）に庄内緑地で開催されたあいち防災フェスタにブースを出展しました。

あいち防災フェスタは、県民に防災への関心を高めてもらうため、また、地震への備えを進めてもらうため、愛知県民、自主防災組織、企業、NPO、ボランティア等が連携し、一体となって防災対策に取り組む防災協働社会の連携を推進するとともに、家具等の転倒防止対策や防災ボランティア活動への理解促進を図ることを目的として、愛知県が平成19年度から毎年開催しているイベントです。

当日は、昨年に引き続き、日本地震再保険株式会社と連携・隣接ブースで出展し、日本地震再保険社は「ポスター掲示による地震保険の紹介」や「小さいお子様がいるご家庭向けの地震対策啓発チラシや防災ヘルメット用動物シールの配布」を行い、当協会は「写真入り防災カードの作成体験」、「地震こわれる診断VRによる地震発生時の建物の揺れの疑似体験」を実施しました。

当協会のブースには、約150組の家族連れ等が来場し、地震こわれる診断VRで震度6強発生時に自宅の家具等が散乱する様子を見て、家具固定や地震保険の大切さをお話したり、チェキで撮った写真入り防災カードを作成したりしました。地震こわれる診断VRを体験した来場者からは、「こんな勢いでテレビが飛んできるとは思わなかった。子ども部屋のテレビや本棚をまず対策したい。」といった声があり、防災カードを作成した来場者からは、「災害時や迷子になったときに鞆に入れておけば安心。高齢の親の防災カードも作成したい。」といった声がありました。

当支部では、会員会社等と連携し、地域の防災力を高めるため、今後も防災・減災啓発活動を進めていきます。



＜日本地震再保険社と隣接ブースで出展＞



＜防災カード作成体験に並ぶ来場者＞



<地震こわれる診断 VR を体験する来場者>



<待ち時間に展示ツール（防災絵巻）を見る来場者>